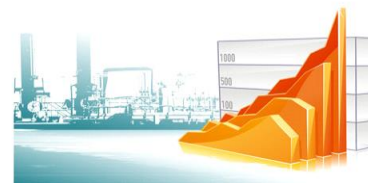


ぎふ経済レポート



平成30年1月分
岐阜県商工労働部

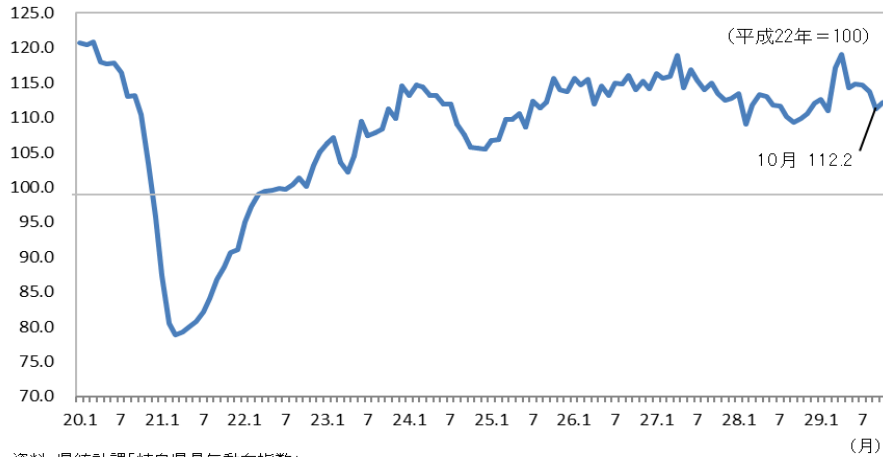
※企業等へのヒアリングは 1月25日～29日を中心に実施し、2月9日に作成。

景気動向

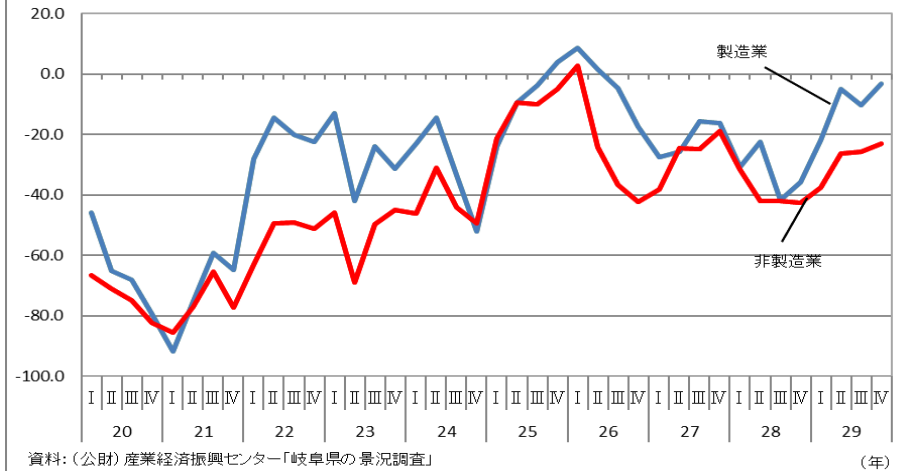
- 10月の景気動向指数(一致指数)は、112.2と前月比1.0ポイント上昇した。
- 12月の県内中小企業の景況感(好転-悪化)は、マイナス19と前月比+4ポイントの改善となった。

- 平成29年10-12月期の景況感は、製造業で7.0ポイント改善、非製造業も2.8ポイント改善。
- 売上高DIは、製造業が14.3ポイント改善した一方で、非製造業は0.8ポイントの微減となった。

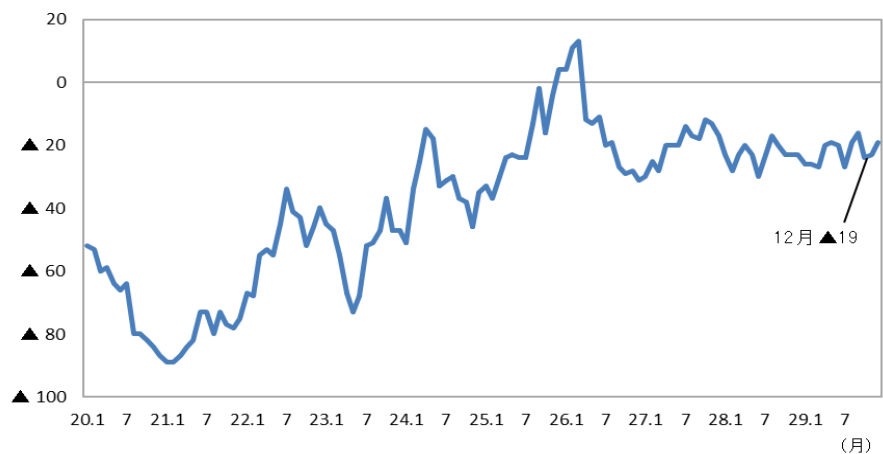
岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



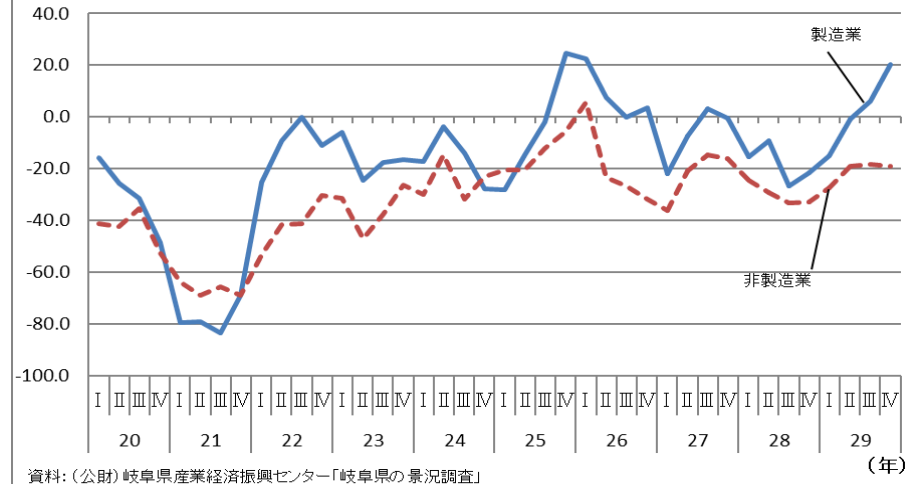
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

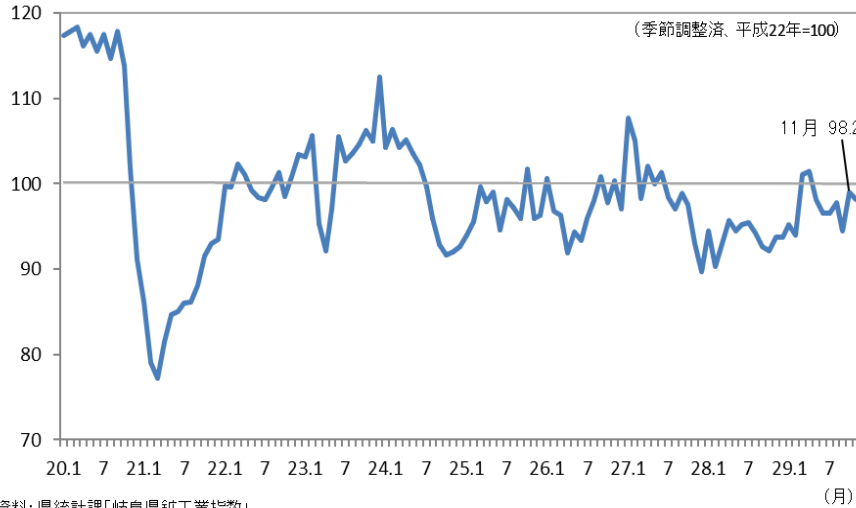


製造業

- 11月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、98.2と前月比0.8ポイント低下。
- 輸送用機械等が上昇したものの、化学工業や電気機械等の悪化の影響を受け低下した。

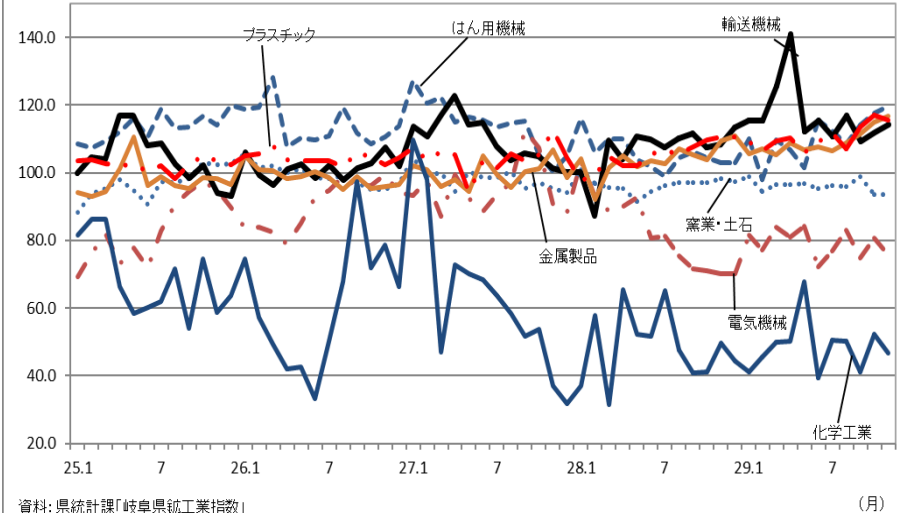
- 11月の主な産業の指数は、前月比で主に輸送用機械(2.4ポイント)、はん用機械(2.0ポイント)等が改善。一方で化学工業(▲5.4ポイント)、電気機械(▲5.2ポイント)等が悪化。

鉱工業生産指数の推移



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」

主な産業の鉱工業生産指数 (季節調整済、平成22年=100)



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」

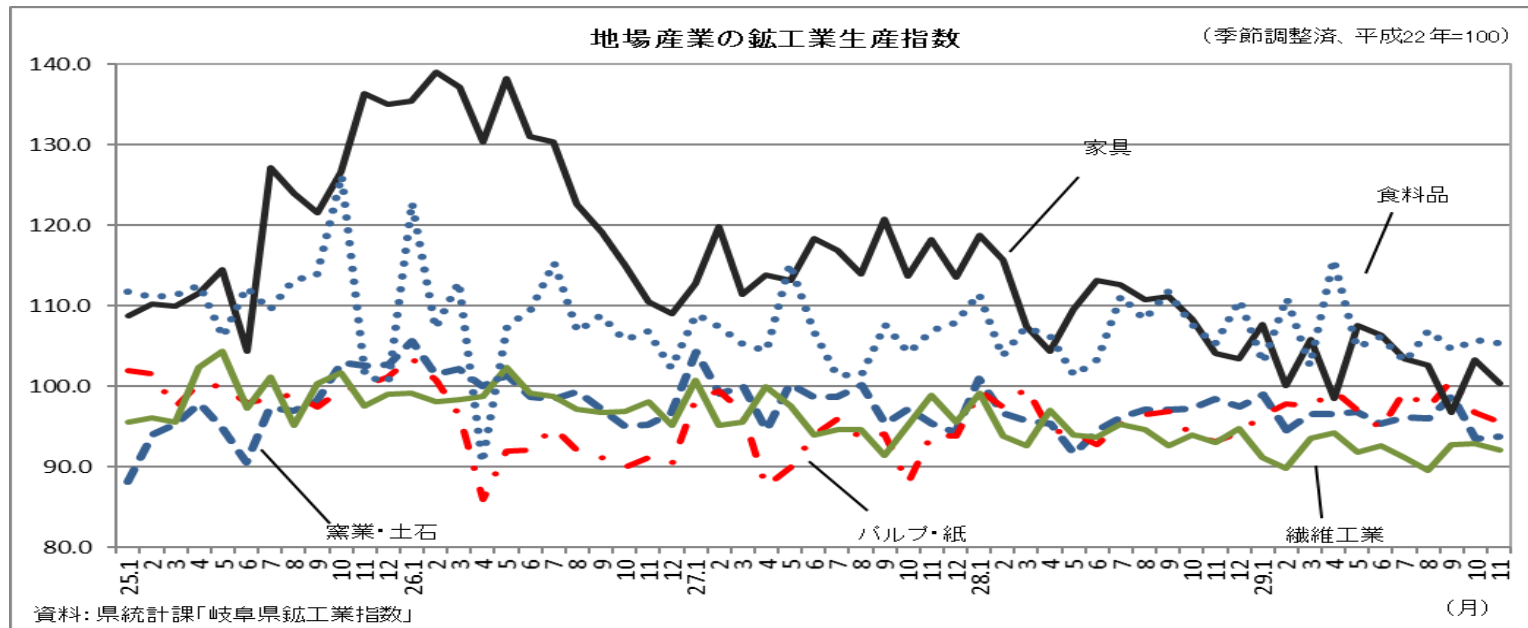
現場の動き

(※数字は前年同月比)

- ◆1月の売上については前年同月比で若干増加。1月より原料価格の大幅な値上げがあり、すぐには価格転嫁ができないため利益は減少。(輸送用機械)
- ◆売上は1~2%増加。自動車部品が好調であることと、2020年に打ち上げが予想されているロケットの開発に係る部品の発注があったことが寄与。(輸送用機械)
- ◆12月の売上は全体で10.1%増加。自動車関連が4.0%、油圧・建機関連が24.4%増加。部品の供給が追いついておらず、受注に対し生産が追いついていない。納期を守るために空路で配送することもある。(生産用機械)
- ◆売上高は10%程度増加。自動車部品やカメラ部品等が好調であったことが要因。(電気機械)
- ◆売上高は16.5%増加。中国向け及び北米向けの建機部品が好調に推移していることに加え、新年度の新車需要の高まりで自動車部品も微増している。(生産用機械)

製造業-2

- 11月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、窯業・土石が前月比0.2ポイント改善したものの、パルプ・紙が▲1.1ポイント、家具が▲2.9ポイント、繊維が▲0.8ポイント、食料品が▲0.5ポイントそれぞれ減少。地場産業の生産は、軒並み前月よりも低下。
- 地場産業は全体的に足踏み感がみられ、厳しい状況が継続。

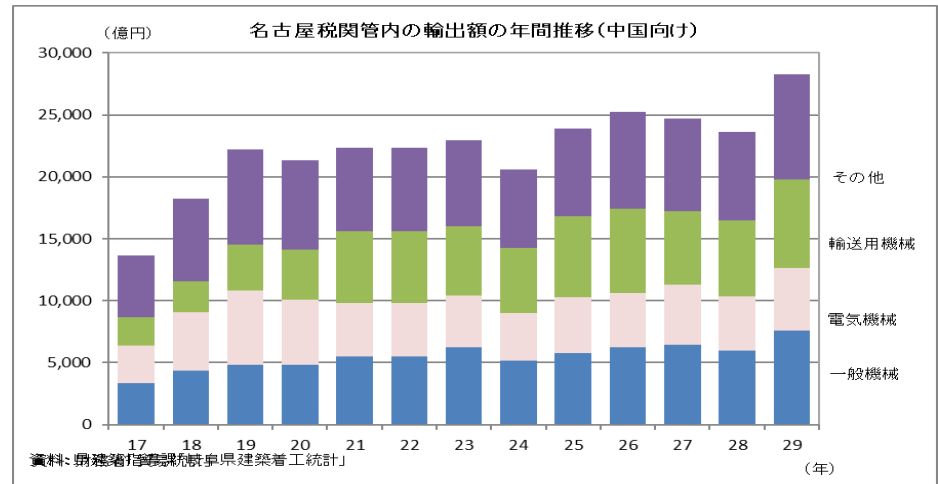
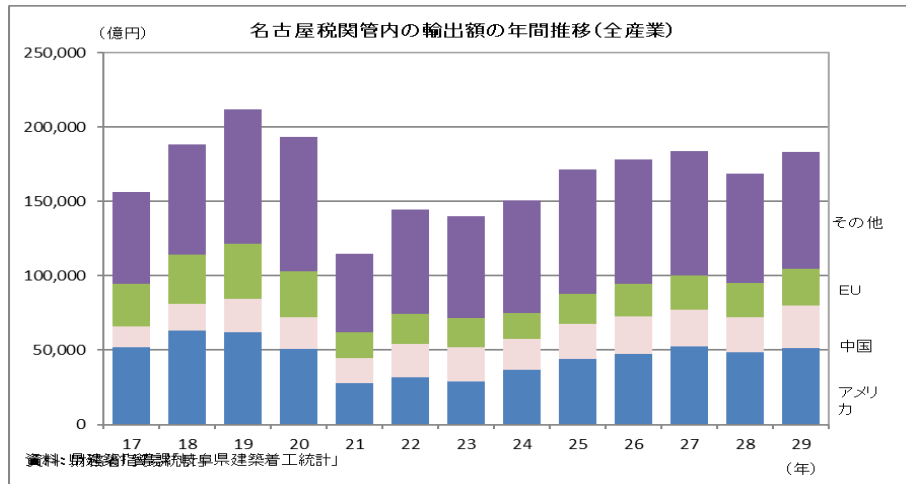
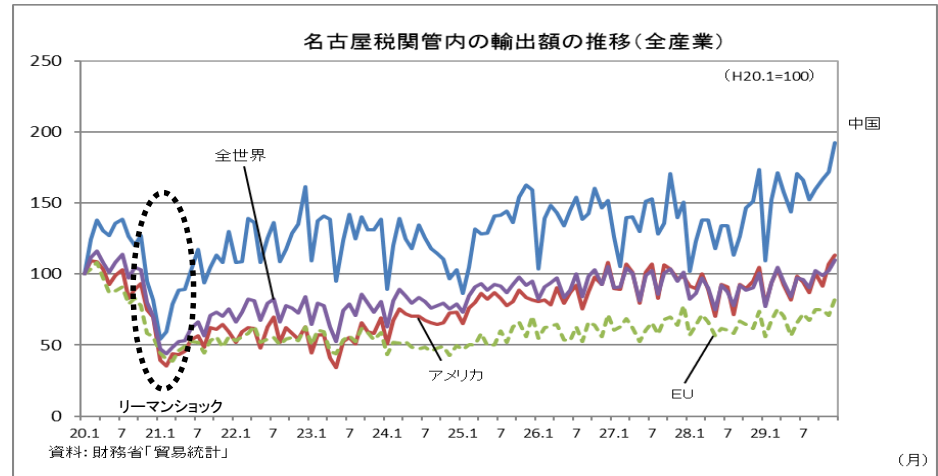
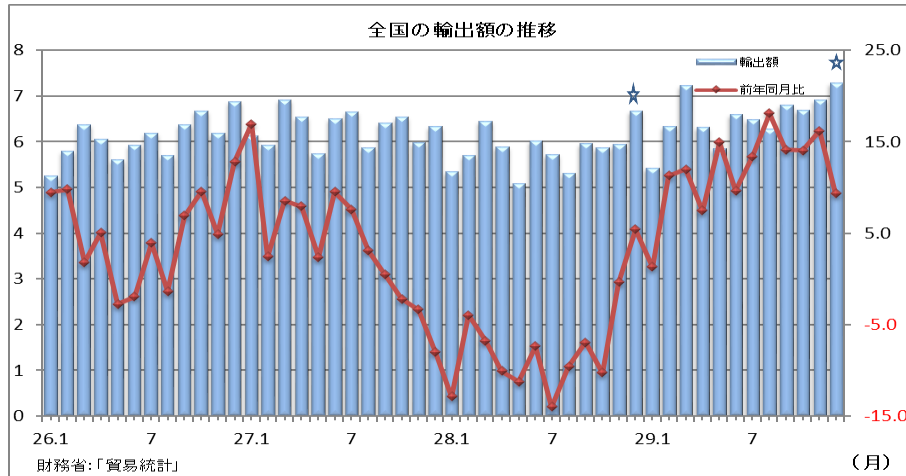


現場の動き

- ◆セールは前値同月比1割減。百貨店の売上も減少しており、アパレル消費が縮小を続けている。(アパレル)
- ◆1月は前年よりも落ちている。客側の景況も下降しており、契約ペースが落ちている。(陶磁器)
- ◆売上は前年同月比5%減だが、利益率は上がっている。受注は10%増加。海外向けが好調で、高額商品の製造が追いつかず、3~4ヶ月待ってもらっている。(刃物)
- ◆ユネスコ登録のピークから美濃和紙業界は少しずつ落ち込んでいる。売上は前年比数%減少。(紙業)
- ◆売上は微増。原材料の生産量が需要に追い付いていなかった。(食品)
- ◆業界としては良くないが、当社はテレビ番組で取り上げられて以降、売上は毎月10~20%程度伸びている。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

- 12月の輸出額(全国)は、7兆3,031億円と前年同月比9.3%増加し、13ヶ月連続で増加。
- 12月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆7,481億円で、前年同月比9.0%増加し、11ヶ月連続して前年を上回る。
- 2017の年累計では18兆3,175億円で前年を8.5%上回り、2年ぶりに前年比で増加した。
- うち中国向けは、12月は前年同月比10.8%増加し、14ヶ月連続で増加となった。また、2017年の累計では、全産業で前年を上回った結果、全体で前年比19.7%の大幅な増加となった。



為替・原油価格等の動向による影響について

- ◆原材料費が上がってきていることに加え、燃料費も上がってきており苦しい。(輸送用機械)
- ◆ドル建ての取引がかなりあるため、現在の円高の状況は危惧している。(陶磁器)
- ◆一部の特殊な紙で数%の値上げ要請あり。(紙業)
- ◆エネルギーコストが上昇傾向で前年度比20~30%増加している。(食品)
- ◆このところガソリンがかなり上がってきており、直接業況に響くので困っている。(運輸業)

自動車業界のEV化への取組み・影響について

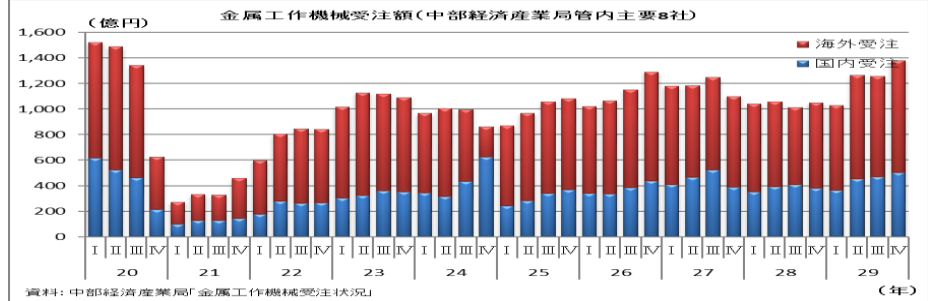
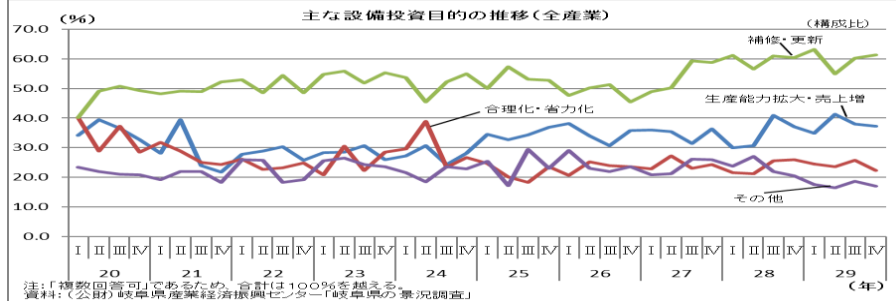
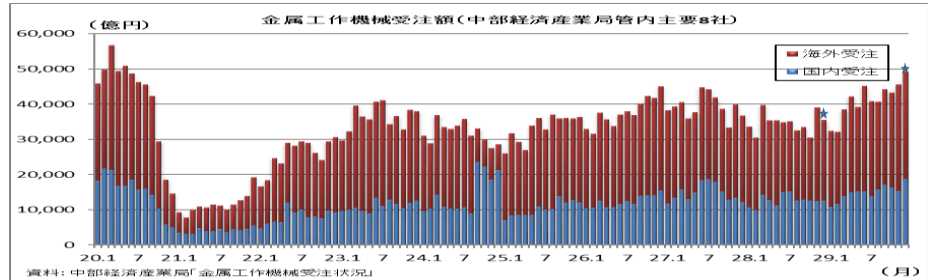
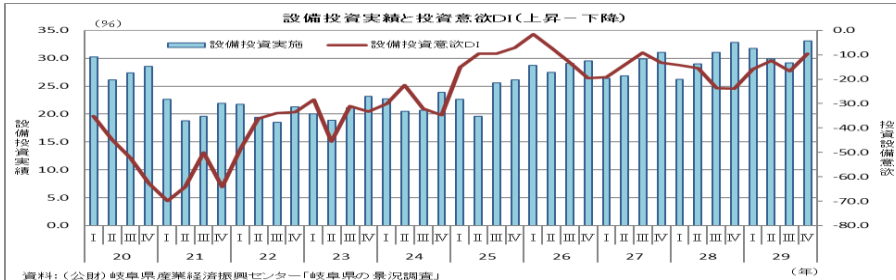
- ◆EV車はガソリン車と比べ部品が少なくなるため、EV車の部品としても使える新たなダイキャスト製品の開発に力を入れているところ。
- ◆自動車業界は世界的に大きな転換点を迎えている。要因は自動運転と、EVであるが、この二つは相性がいいため、いずれ全ての自動車は電気自動車になるのではないか。
- ◆これまで取引のなかった取引先からEV関係の部品発注や見積もり依頼を受けている。(以上、輸送用機械)
- ◆当社のEVに係る主力製品の売上は順調に推移するものと思われる。(電気機械)
- ◆車内で危機感はあるが、まだ具体的には動いていない。(生産用機械)

業界トピックス・トレンドについて

- ◆海外への進出について、ベトナムへの進出が多くなっているが、ベトナムも中心部は人件費が高騰してきている。(輸送用機械)
- ◆アメリカの展示会に出てきた。景気がいいといわれているが、人は少ない。中間層がいいため、景気が良くても悪くても、顧客となる富裕層には影響がない様子。(刃物)
- ◆運送約款改正はまだまだという感じ。業界全体で一斉に動かないと中小の運送業者ではなかなか実行できないのが実情。行政も業界のことを考えてくれるようになったが、まだまだという感じ。(運輸業)
- ◆日本で加工してもかかる費用はそんなに高くないはずなのに材料を中国に輸出し、製品になったものを中国から買っているという話を聞く。日本の産業がますます弱くなる。(製材)
- ◆健康食品の売れ筋ランキングで、昨年1位であったコラーゲンを抜き乳酸菌が1位になった。乳酸菌サプリメントの市場規模は200億円に達する状況。(食品)

設備投資

- 平成29年10－12月期の設備投資実績は前期比3.9ポイント増加。設備投資意欲DIは前期より7.2ポイント増加し、投資意欲が改善。目的別では、「補修・更新」が、前期比1.1ポイント増加した一方、「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」は微減となった。
- 平成29年12月の金属工作機械受注額は、一般機械工業向けが好調で、前年同月比47.6%増加。海外受注は同13.9%増加。全体では33.6%増加と引き続き工作機械の受注状況は好調。
- 平成29年第4四半期の同受注額は前年同期比22.1%の増加と3期連続で増加となる。



現場の動き

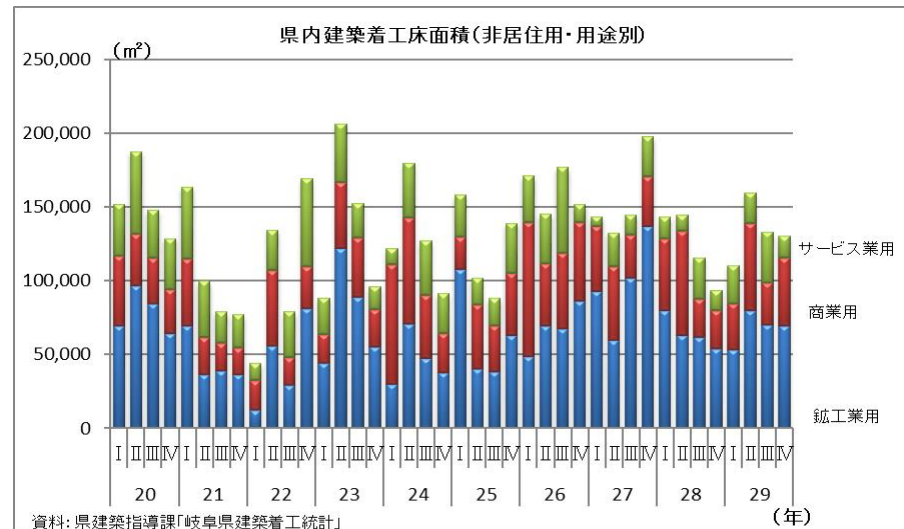
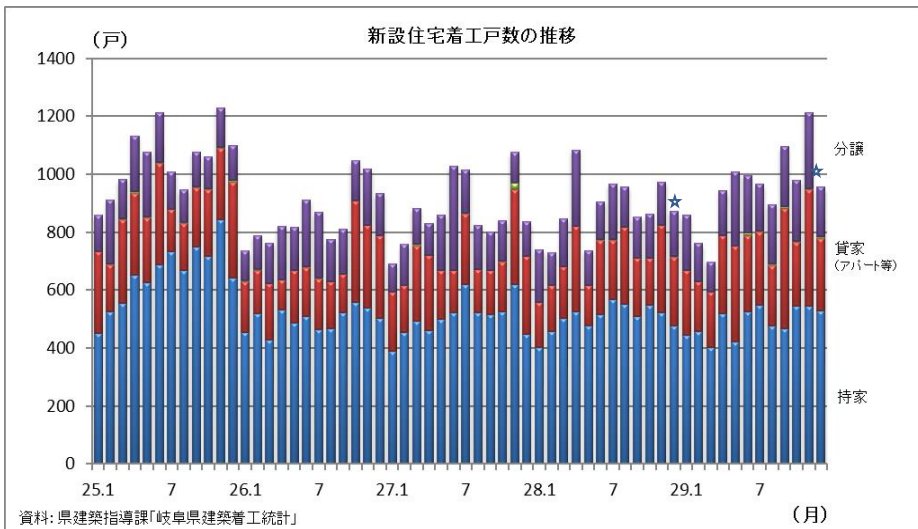
- ◆新規製品の加工ラインや従来製品の増設ラインに設備投資予定。(輸送用機械)
- ◆導入した設備が稼働していない。客先の監査が必要だが、その対応に関する人手不足の影響。(非鉄金属)
- ◆油圧・建機関連は回復しているが、中国や新興国の影響を受けやすく、過去にも急に止まったこともあり、先が読めないため、安易な設備投資はできない。(輸送用機械)
- ◆増産を目的に新工場を新設。加えて、福利厚生を目的として食堂を新設した。(刃物)
- ◆省力化を目的として、自動化設備やカメラによる検査機器の導入を考えている。(食品)
- ◆詳細は未定であるが、別棟建設の計画がある。(岐阜市内大型商業施設)

住宅・建築投資

○12月の住宅着工戸数は、前年同月比9.5%増加し、4ヶ月連続で増加した。

○持家が同11.2%増加と、2ヶ月連続で増加し、貸家が同4.2%、分譲住宅が同10.3%増加するなど、堅調に推移。

○平成29年10-12月期の建築着工床面積は、前年同期比で商業用が同21.9%、鉱工業用16.5%、サービス業用1.0%とそれぞれ増加し、3期連続で増加。商工業面においても建築が活発となっている。

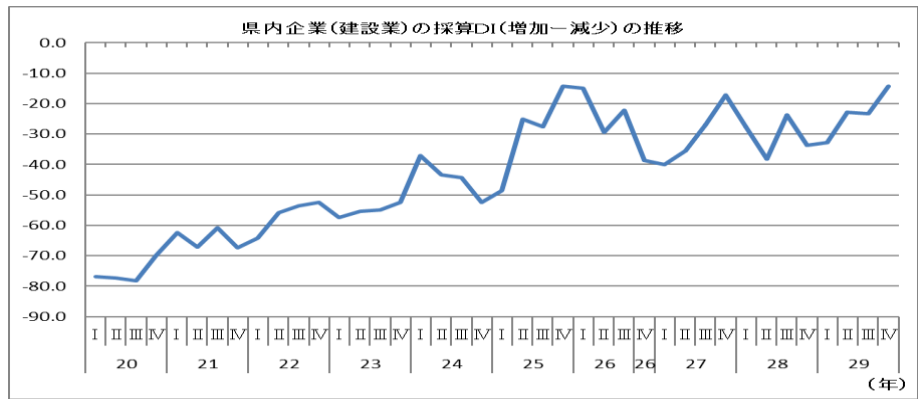
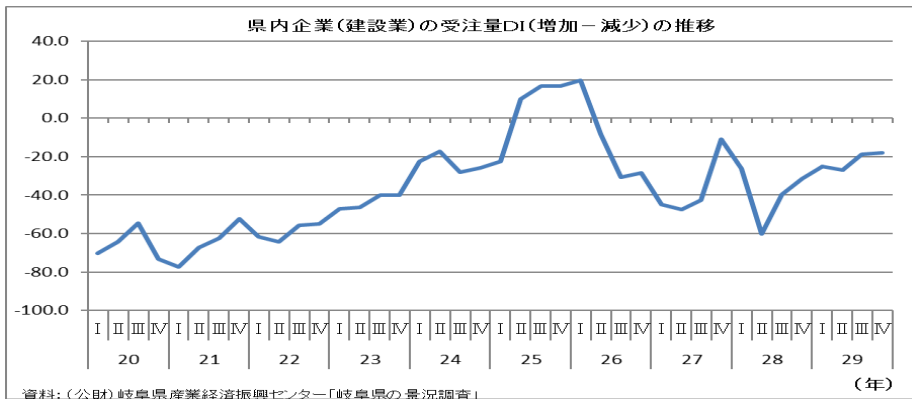
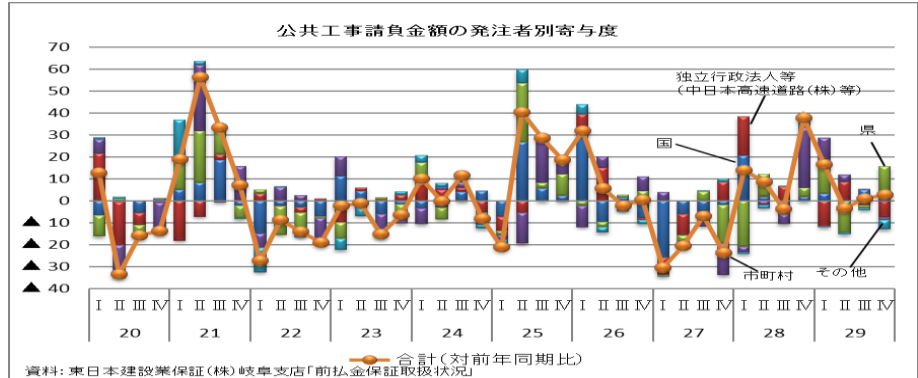
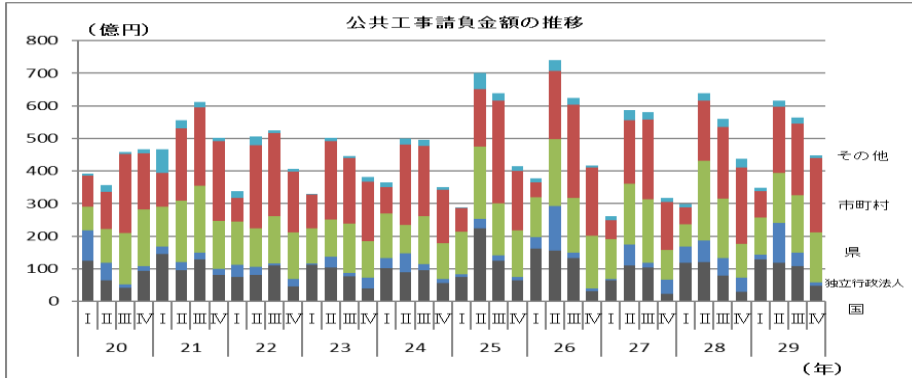


現場の動き

- ◆県内、県外の展示場の受注は例年並み。見込みのあるお客が増えた。(住宅)
- ◆売上は前年同月比で4%減少。受注残は前年同月比81%程度まで減少している。東海地区ではヒノキ、スギの並材の105角の柱や土台で不足感が続いている。(製材)
- ◆製品価格はなかなか上がらないが、原木価格がじりじり上がってきているのでさらに利益率が下がる。(製材)
- ◆売上は前年同月比15%減少。3月までは横ばいだが仕事はあるものの、それ以降は不透明。(木材加工)
- ◆前月に続き、スギの構造材向け並材と合板向けがかなり不足。全国的に原木の不足感が強いため、価格はやや上げ気味となっている。2~3月までは原木が不足する状況が続く見込み。A材は外材が高値となっており、国産材の引き合いは強い。B材はスギ、ヒノキともに不足。C・D材は製紙用の針葉樹チップが不足。(森林組合)

公共工事

- 平成29年10－12月期の発注者別の公共工事請負金額は、全体が、前年同月比2.7%増加。国が同66.0%増加し、県が47.7%増加した一方で、独立行政法人及び市町村は減少となった。
- 県内建設業の平成29年10－12期の受注量DIは前期比0.9ポイント改善。前回調査時の見通し(7.6ポイント悪化)よりも大幅に改善した。また、同採算DIは8.9ポイント改善した。



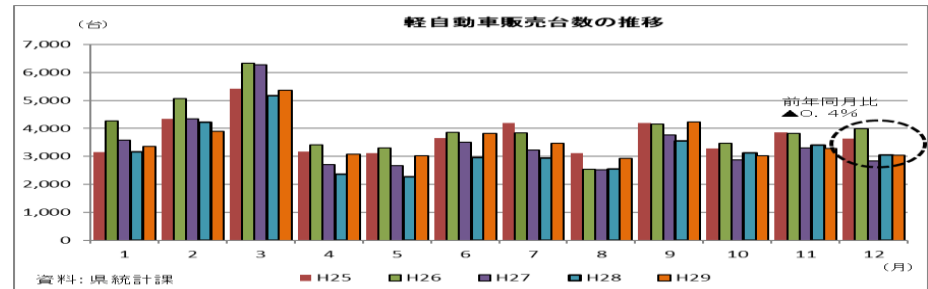
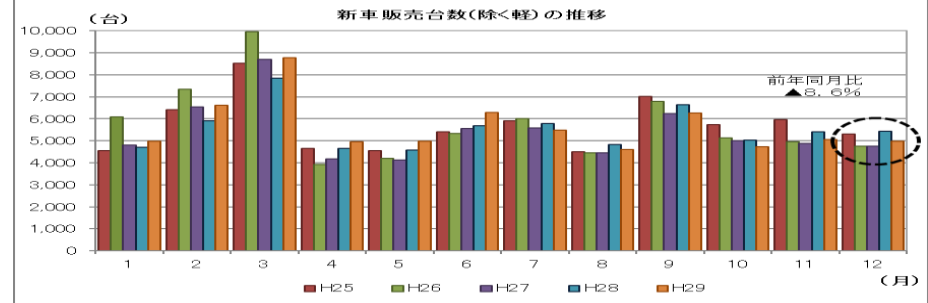
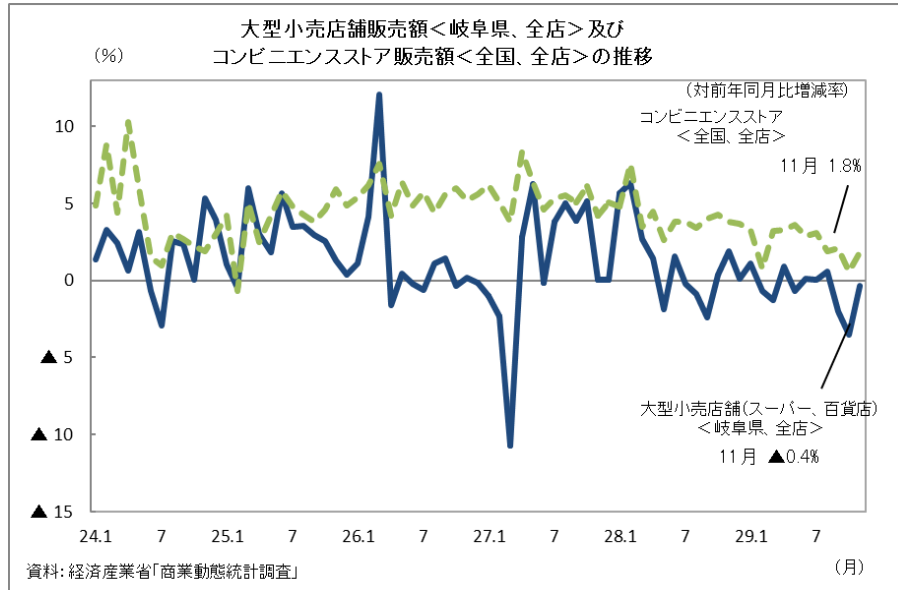
現場の動き

- ◆発注機関別では、国・県は例年並み。市町村は少ないと感じている。
- ◆国工事は、工期に多少なりとも余裕が出てきており、この流れが県や市町村に広がることを期待している。
- ◆ICT活用工事について国交省が2月から積算方法を変更するというので、適正な利益が出てくることを大いに期待している。(以上、建設業者)

個人消費(流通・小売)

- 11月の大型小売店販売額は、前年同月比で0.4%減少し、3ヶ月連続でマイナスとなる。
- コンビニエンスストアの11月の販売額は、前年同月比1.8%の増加と、プラス圏を維持し、底堅い推移となっている。

- 12月の新車販売(除く軽)は、前年同月比で8.6%減少し、6ヶ月連続で前年を下回った。
- 軽自動車は、同0.4%減少と3ヶ月連続で前年同月を下回った。
- 合算では前年同月比5.6%の減少。



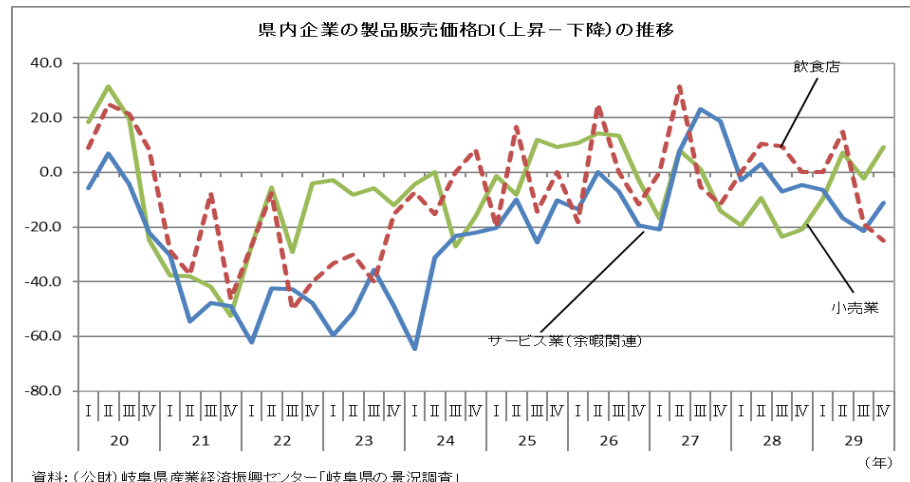
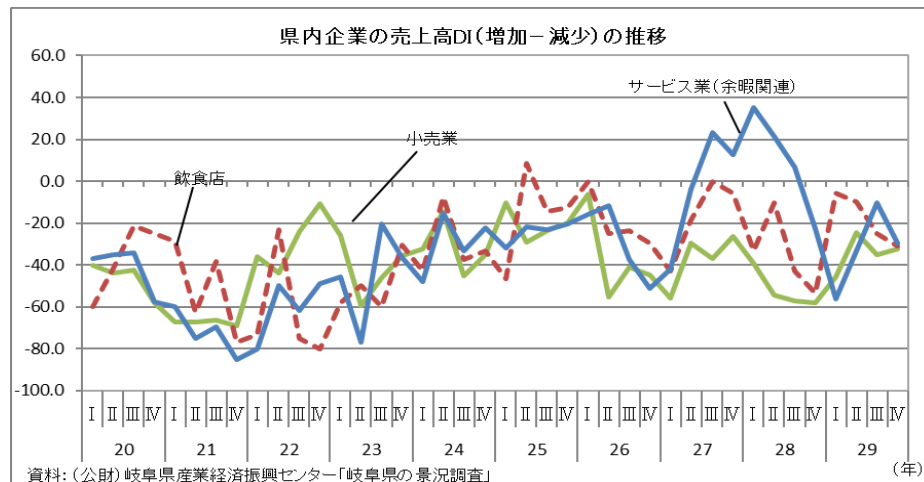
現場の動き

(※数字は前年同月比)

- ◆売上は10%増加。専門店のみに20%増。新車販売は不正問題の影響が残っているのか、同5%減少。映画は昨年のビッグヒットの反動減で同40%減少しているが、来月にはその影響は無くなる見込み。来年の正月三が日は閉店時刻の繰り上げの検討を始めている。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆売上は同8%増加。来客数は5%増加。気温の後押しもありライトダウンや保温性のあるボトムが良く売れた。1回の買い物での支払金額が上がっており、景況が良くなっていると感じる。(高山市スーパー)
- ◆1月の売上は同0.7%減少、客数も同3.5%減少。天候の影響を大きく受けた形。(コンビニ)
- ◆売上は横ばいだが、燃料が相当上がってきており業況にもかかわってくるので困っている。(運輸業)

個人消費(流通・小売)ー2

- 平成29年10ー12月期の売上高DIは、小売業で前期比3.0ポイント改善したものの、飲食店は同6.2ポイント、サービス業(余暇関連)では同19.4ポイントそれぞれ悪化となった。
- 同じく販売価格DIについては小売業で11.0ポイント、サービス業で10.4ポイントそれぞれ大幅に改善する一方で、飲食店は6.2ポイント悪化。個人消費については力強さを欠いている。



現場の動き

(※数字は前年同月比)

- ◆入館者数は前年同月を上回る見込み。館全体売上については3ヶ月連続で前年同月を上回った。
- ◆飲食、物販は前年を上回ったが、生鮮食品、ファッション、サービスは前年を下回った。(以上、アクティブG)
- ◆ブティックの売上は、寒波の影響で来店客数が減少した結果、6%減少となった。飲食店は10%減少。
- ◆和菓子店の売上は5%増加。1月上旬は人通りが少なかったが、中旬以降良くなっている。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆和菓子店は同9%減。雪の影響で客足が遠のいたことと、店の前の道路工事が影響。(以上、大垣市商店街)
- ◆1月は二十四日市があり、寒さは厳しかったが例年並みの人出。厳しい寒さが続いているが観光客は多い。
- ◆衣料品店は17%増加。地方都市では景気が上向いているとは思えない。
- ◆陶器・土産物店の売上は20%減少。観光客は多いが売り上げに結び付いていない。(以上、高山市商店街)
- ◆酒類販売は例年並み。寒さの影響は無いが消費はまだ低迷していると感じる。
- ◆子供服店の売上も例年並み。寒さも原因の一つであるが、そもそも、商店街に出てきてもらえない。(以上、多治見市商店街)

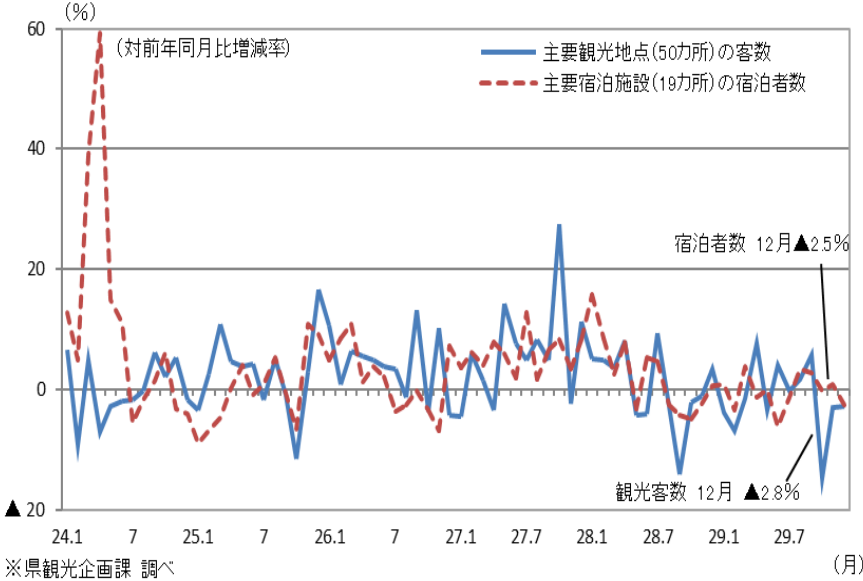
観光

○主要観光地における12月の観光客数は、前年同月比2.8%減と3ヶ月連続で前年同月を下回った。

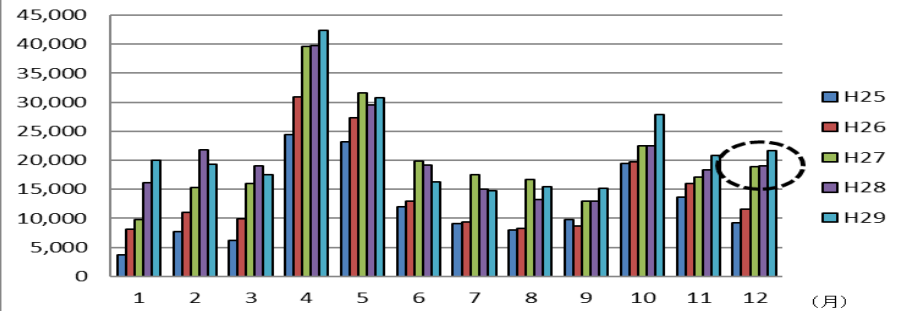
○12月の主要宿泊施設における宿泊者数は、同2.5%の減と2ヶ月ぶりに前年を下回った。

○12月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比で13.6%の増加となり、5ヶ月連続で前年同月を上回った。

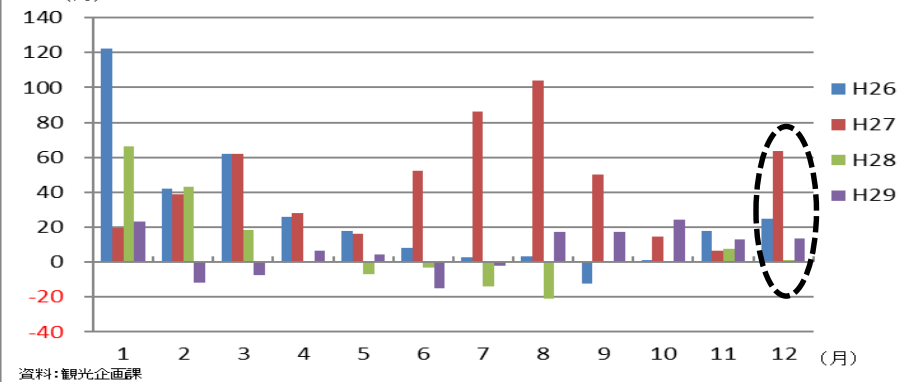
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客数(対前年比推移)



主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)

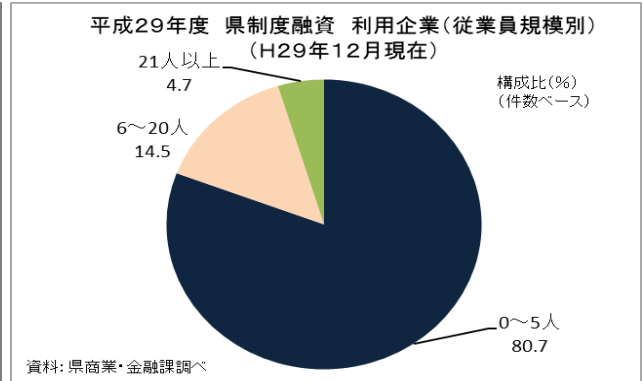
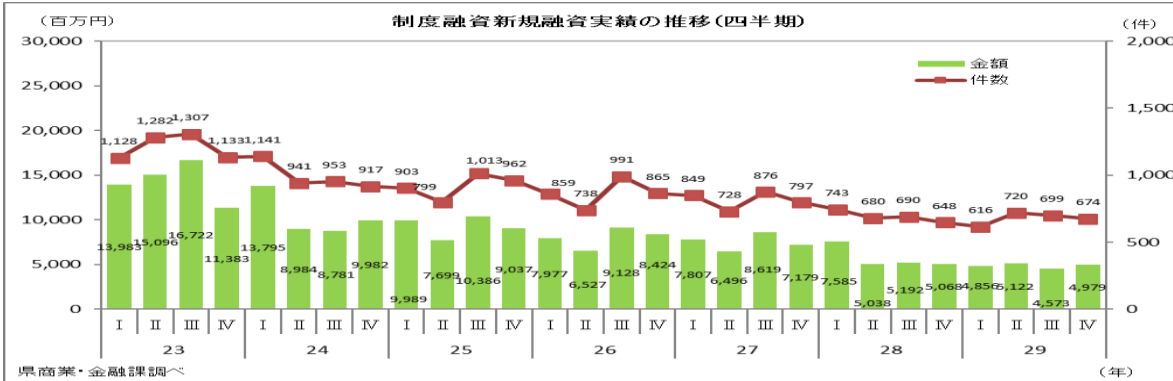
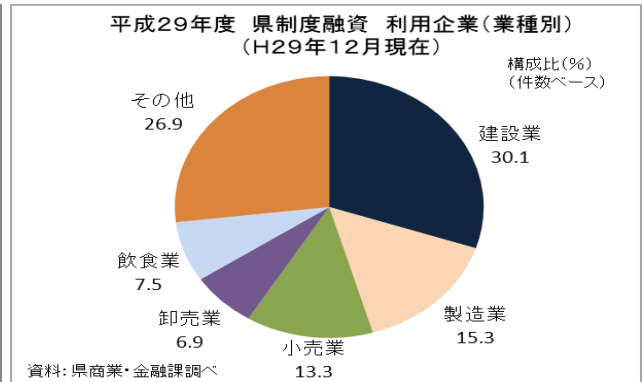
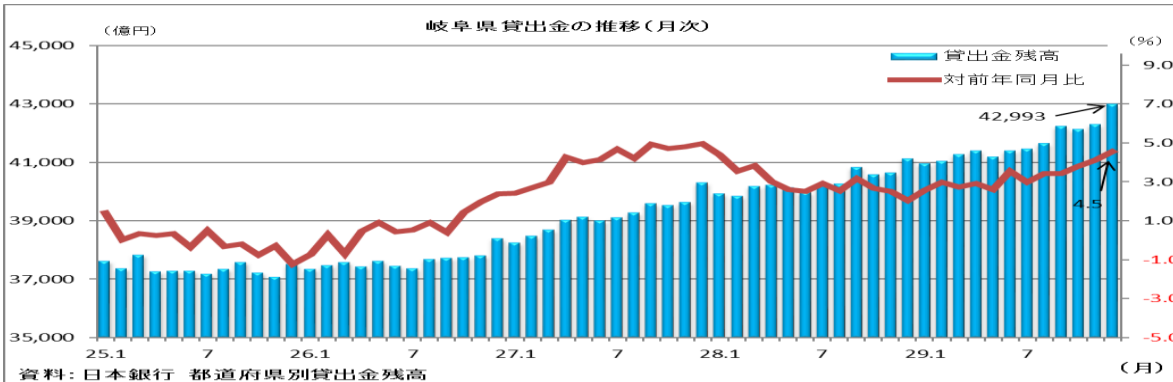


現場の動き

- ◆台湾からのお客さまが減少している。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆タイ、マレーシアからのお客さまが大幅に増加している。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆インターネット予約や宴会利用後の宿泊が目立つ。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆国内の団体客、特にバス旅行の利用が少ない。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆アセアン諸国から雪を目的に団体、個人客ともに好調である。(高山市内の宿泊施設)
- ◆年末年始は順調で、かつインターネットからの予約の割合も増加している。(高山市内の複数宿泊施設)
- ◆2月後半からは学生団体、卒業旅行が中心となる見込みである。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 12月の岐阜県貸出金残高は、4兆2,993億円で前年同月比4.5%増と堅調な伸びを維持。
- 12月の制度融資実績は、金額が2,048百万円で同7.1%増加し、2ヶ月ぶりに増加。件数も2ヶ月ぶりに増加し、同6.8%増加し284件となった。
- 平成29年第4四半期は、前年同月比で金額は1.8%減少したものの、件数は4.0%増加した。

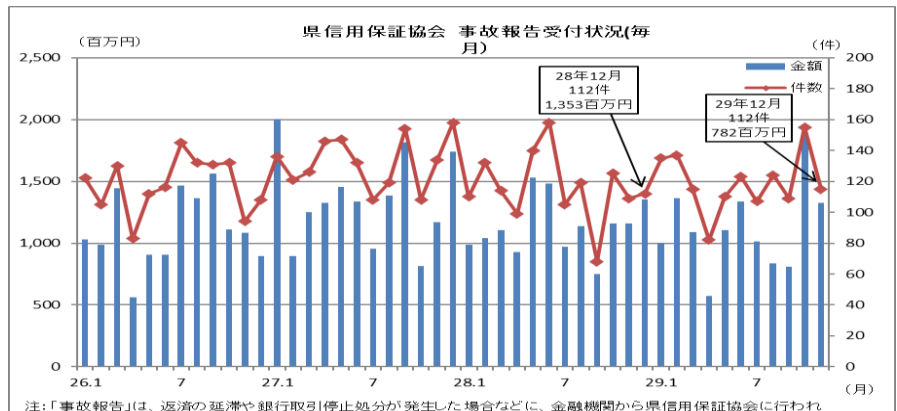
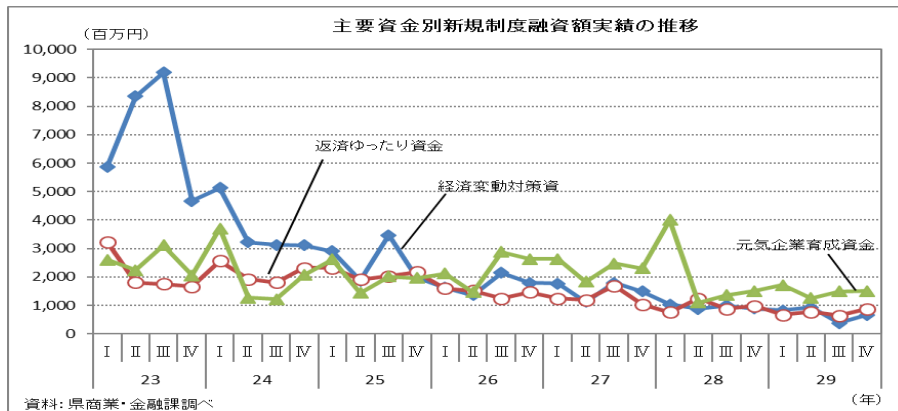
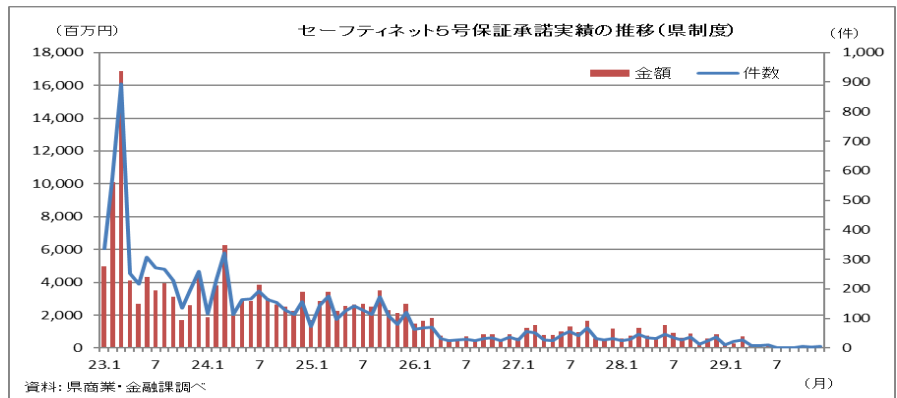
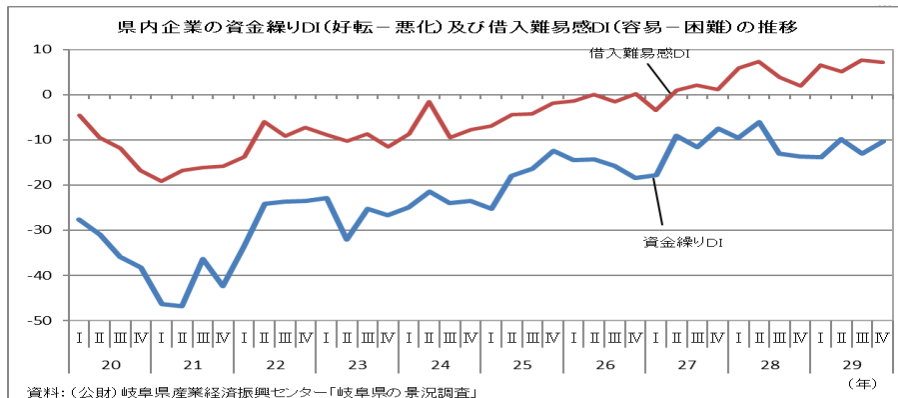


現場の動き

- ◆ 融資動向はほぼ横ばいで推移。
- ◆ 地場産業関係や小売り・運送業で人手不足感が続いている。
- ◆ 設備投資について、省力化・合理化を目的とした投資がみられる。
- ◆ 原油価格の上昇はスタンドにとっては資金的にはプラス。(以上、金融)

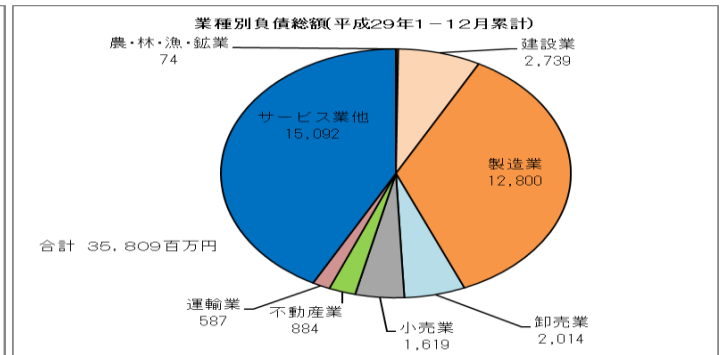
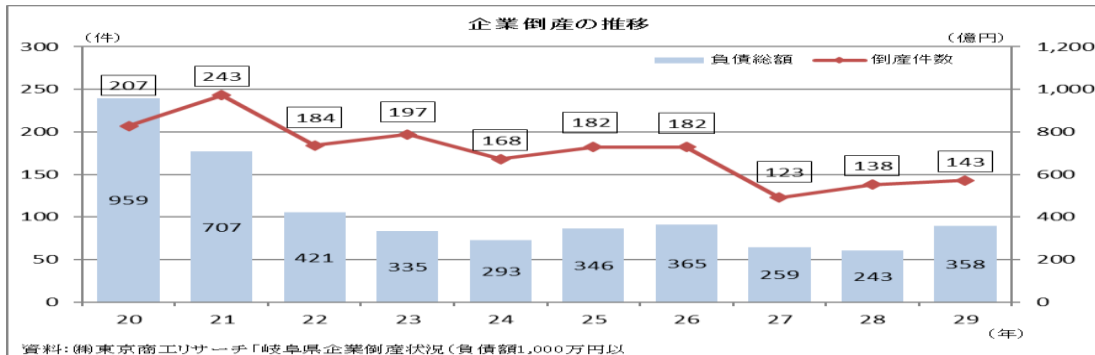
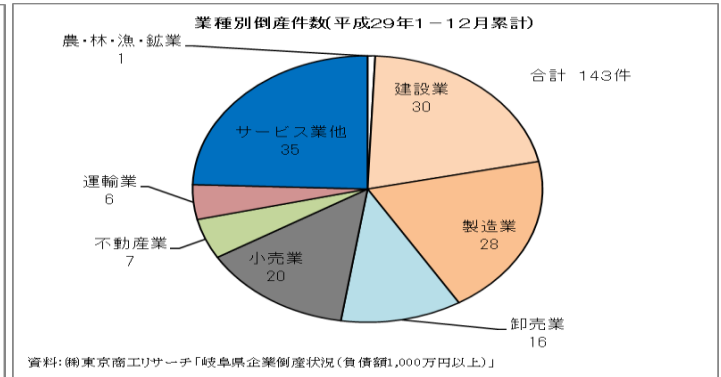
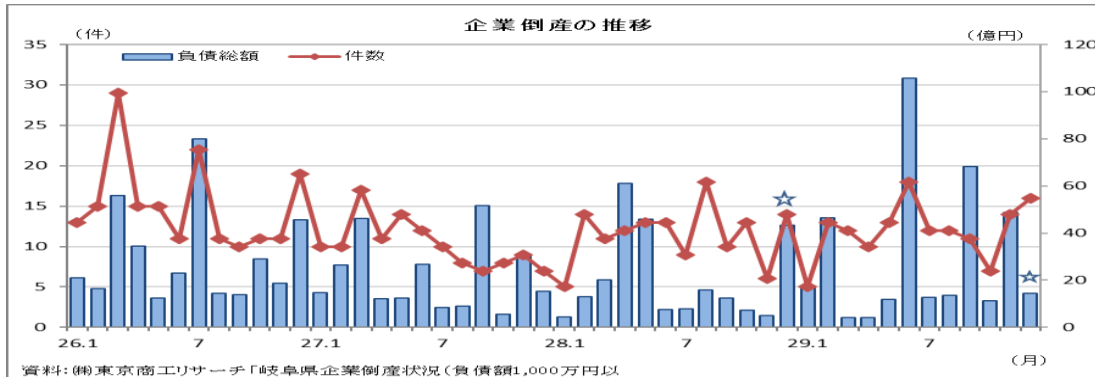
資金繰りー2

- 県内企業の平成29年10－12月期の借入難易感DIは、7.2ポイントと前期比0.5ポイント悪化。一方で、資金繰りDIは、マイナス10.4ポイントと、同2.7ポイント改善。
- 平成29年10－12月期の主要資金別新規制度融資実績は、前年同期比で経済変動対策資金が▲24.9%、返済ゆったり資金が▲11.2%と減少傾向が続いているが、元気企業育成資金は同0.1%増加しており、金額も他の2つの制度融資と比べると多く利用されている。
- セーフティネット5号保証承諾実績は、件数が前年同月比86.8%減少し5件。金額についても同86.8%減少し108百万円と、経済状態が落ち着く中で、利用は低調に推移。
- 平成29年12月期の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が112件で前年同月比横ばい。金額は782百万円で同42.2%減少した。



倒産

- 12月の倒産件数は前年同月比2件増加し16件。負債総額は2,876百万円減少し、1,443百万円となった。倒産件数は増加したものの、全体的には小規模倒産が中心。
- 平成29年の倒産件数は143件と前年比5件増加。負債総額は複数の大口倒産が発生した影響で115億円(+47.3%)増加し、358億円となった。



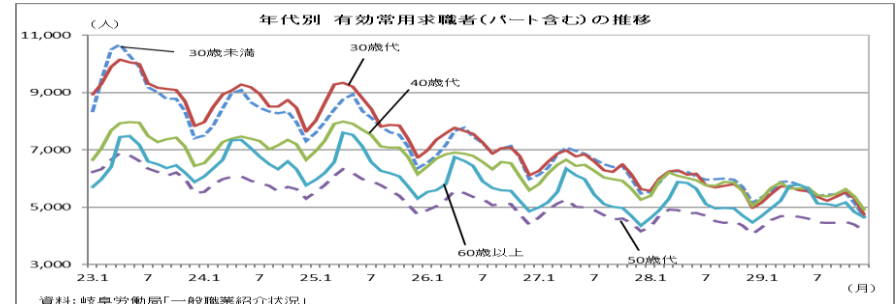
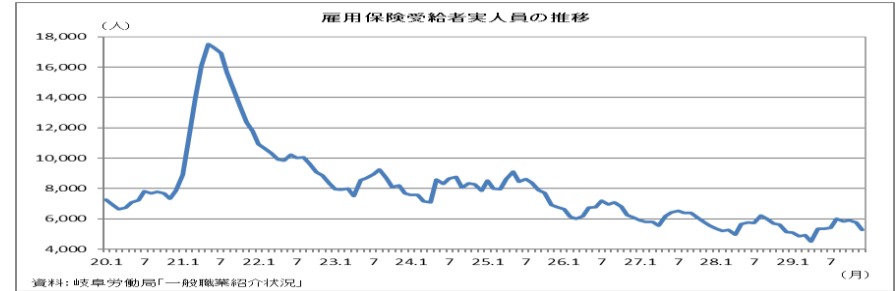
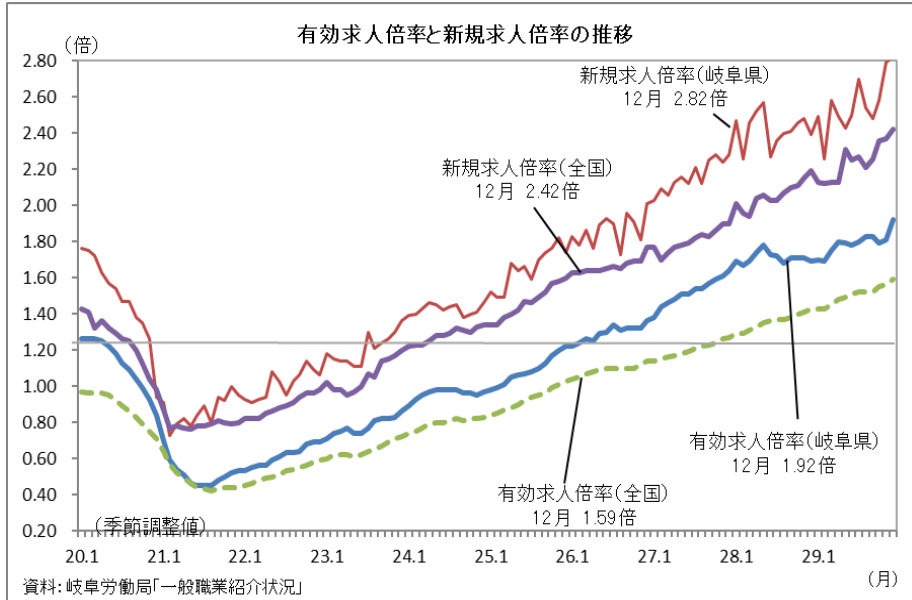
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

◆株価は高値で推移し、個人消費についてもここに来て回復の兆しがあるとも言われる。しかし、個人消費について関しては、株高の影響で一部の分野が改善されたにすぎない程度で、多くの分野では業況が回復していないケースが多々見受けられる。一方で、中小企業金融円滑化法などの金融関連の各種政策支援は、出口戦略に向けて転換されつつあり、近々での倒産の急増は窺われないものと推察されるが、半年・1年単位でみた倒産件数は徐々に増加する傾向で、今後も同様の傾向が加速する可能性も捨てきれず、楽観はできない。

雇用

- 12月の有効求人倍率は1.92倍と前月比で0.11ポイント上昇。全国で4番目の高水準。
- 12月の新規求人倍率は2.82倍と前月より0.03ポイント増加した。

- 12月の雇用保険受給者人員は前年同月比3.3%増加。3ヶ月連続で増加となる。
- 年代別有効常用求職者では、60歳以上が及び50歳以上が前年同月比で増加した。



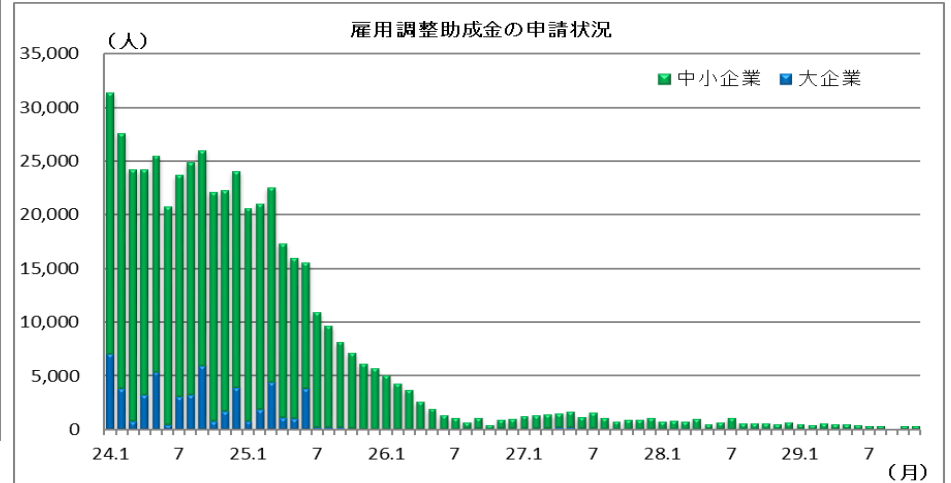
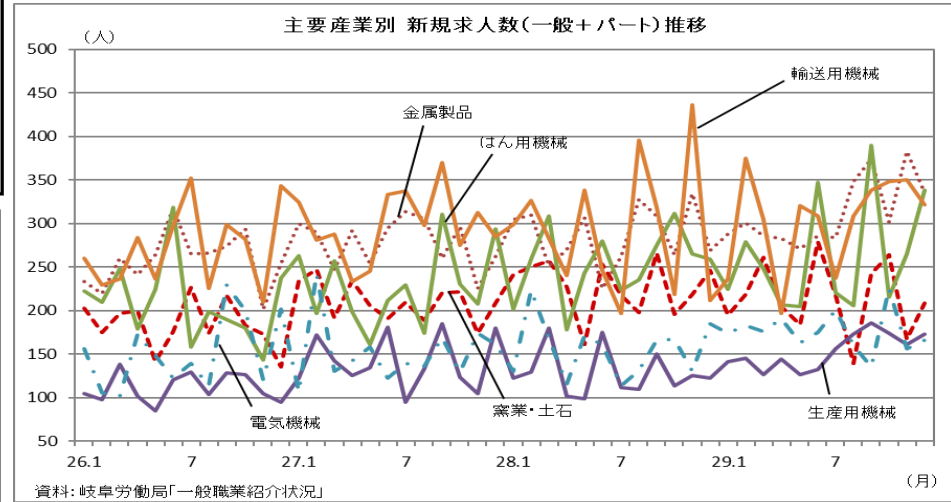
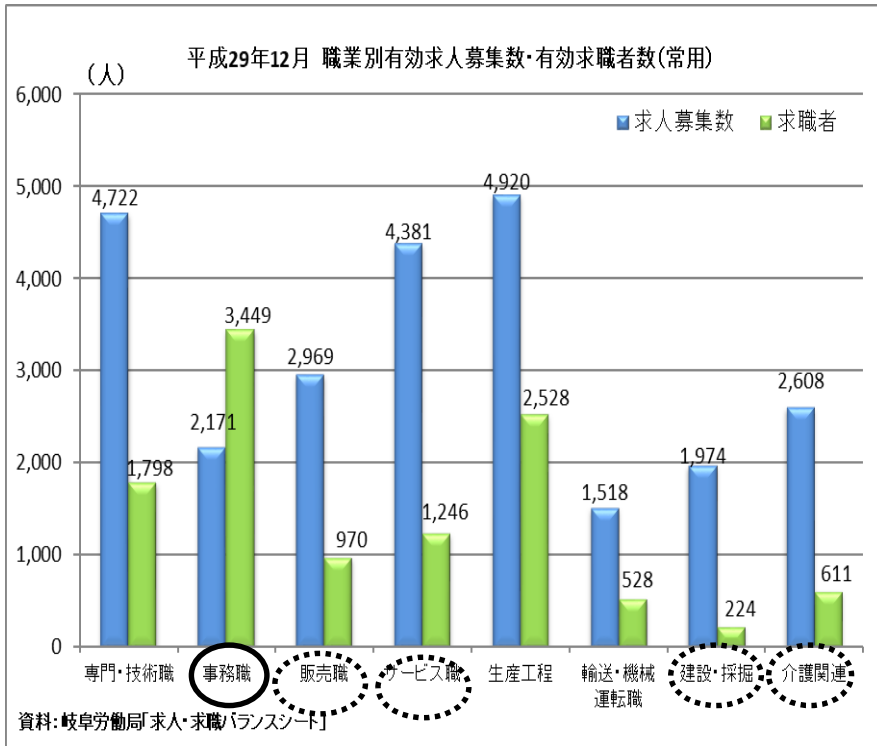
現場の動き

- ◆愛知県の手製造業から地元の高校への求人数も多く、採用は昨年と比較すると厳しい状況。(輸送用機械)
- ◆例年学卒者1名と高卒2、3名を採用しているが今年は採用できなかった。(輸送用機械)
- ◆事務系の仕事は応募者が多く、ハローワークでの紹介や派遣で対応できたが、一方で製造現場での仕事は応募が少ない。(食品)
- ◆直近での人手不足感はないが、現在雇用している年配の職人たちが退職した後の人材不足を危惧。(陶磁器)
- ◆作業員の入職が極端に少ない。高齢化が進み今後工事に支障が出てくるのが想像できる。(建設業)
- ◆募集しても応募がない。昔と違って最近のドライバーはサラリーマン的で、不規則な勤務を敬遠する。(運輸業)
- ◆就業に関する相談は、全般的に昨年の同時期と比較して少なくなっている。(林業労働力確保センター)

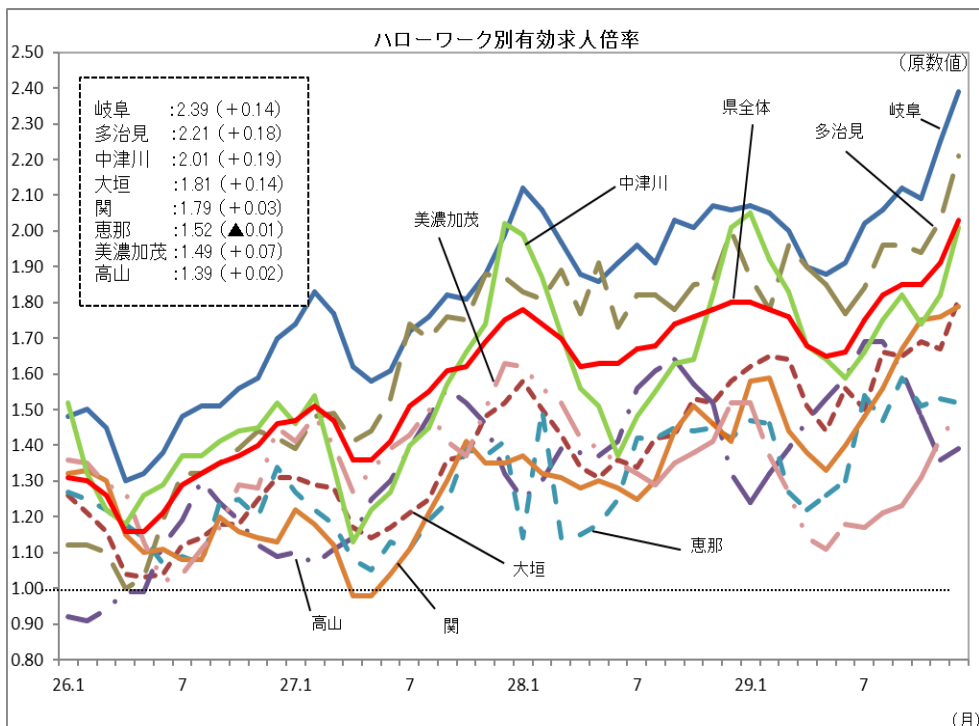
雇 用(職業別)

- 各分野において人手不足の状態。特に建設・採掘の求人倍率約8.8倍や、介護関連の求人倍率4.3倍など、専門人材の不足が引き続き顕著になっている。
- また、サービス職3.5倍、販売職3.1倍などサービス産業においても人手不足は深刻。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.6倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

- 12月の主要産業新規求人数は、前年同月比で輸送用機械が51.8%、生産用機械が41.8%、はん用機械が30.5%、金属製品が24.5%とそれぞれ大幅に増加。窯業・土石、電気機械は減少となったが、全体的に求人は活発化している。



雇用(地域別)



注1: 大垣所分は揖斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○12月のハローワーク別有効求人倍率は、恵那のみが下落し、それ以外の地域は上昇。特に岐阜は前月比0.14ポイント上昇しており、人手不足が深刻になっている。

現場の動き(先月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数ともにやや増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子> ※前月比

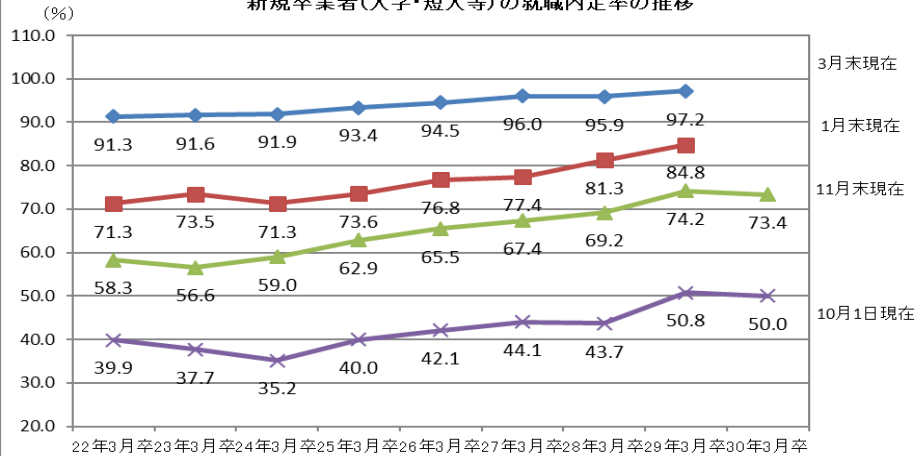
- ◆すべての地域の窓口が前月に比べて、混雑している。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の11月末時点の大学・短大卒業者(平成30年3月卒業)の就職内定率は、73.4%と前年比▲0.8ポイント減少。

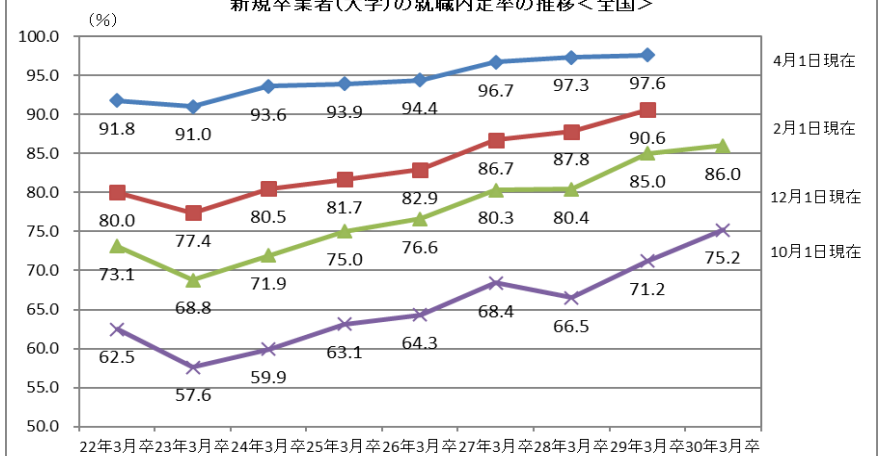
○全国の12月1日時点の同内定率は86.0%と統計を開始した平成8年以降同時期で過去最高。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移



資料: 岐阜労働局「新規大学等者の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(平成30年3月卒の動きなど)

<18年卒就職活動の総括>

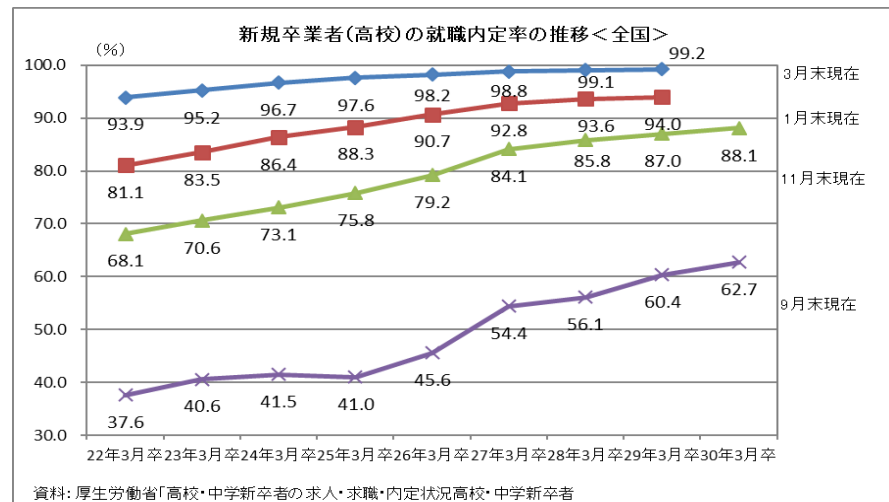
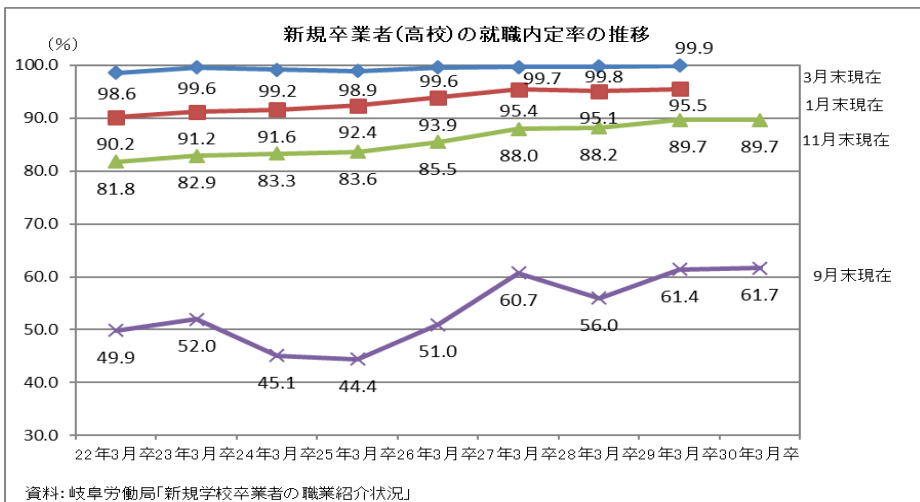
- ◆企業は人手不足感の高まりから採用意欲を前年よりもさらに高め採用に臨む一方で、学生は業界研究やインターンシップを通じて働くことに関してある程度イメージを持って就職活動に臨む傾向にあった。
- ◆企業はエントリーした学生とすぐに接触し、選考までハイペースで進捗。
- ◆学生は前年よりも「売り手市場」であることを早くから感じ取り、大手企業を志向する割合が増加。
- ◆また、「働き方改革」などの労働問題が多く取り上げられる中で、労働環境の整備や、福利厚生が充実している企業を志向する学生が増加。(以上、マイナビ「2017年度新卒採用就職戦線総括」より抜粋)

<大学へのヒアリング>

- ◆18卒生の就職はほぼ決まっており、キャリアセンターとしては終了。(県内大学)
- ◆18卒生の1月末時点内定率は95.7%。前月より1.5%上昇。(愛知県内の工業大学)
- ◆18卒生の1月末時点内定率は91%。未内定者の活動は3月のギリギリまで続く見込み。(愛知県内大学)

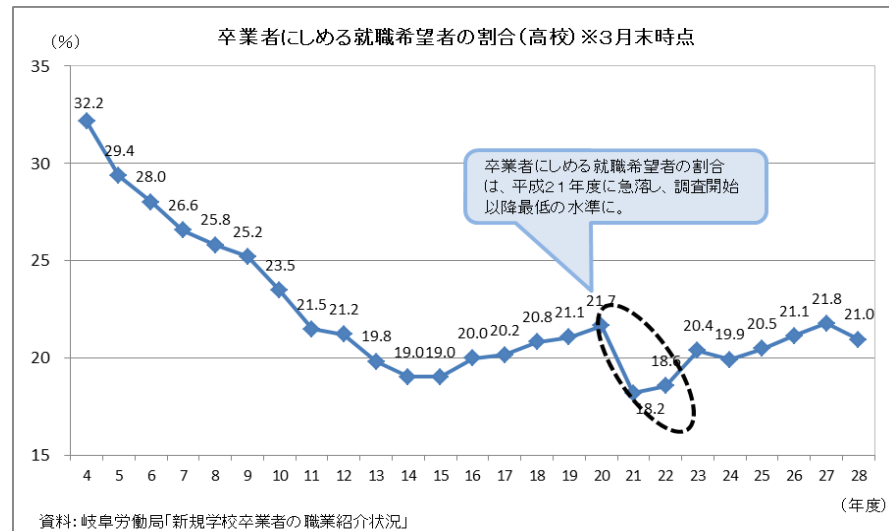
雇 用(高校新卒者の就職)

- 29年11月末時点の高校卒業者(平成30年3月卒業)就職内定率は、前年比横ばいの89.7%となり、直近9年間の11月末時点の内定率では前年に続き最も高い値となっている。
- 全国の11月末時点の就職内定率は88.1%と前年同期比1.1ポイント増加。
- 平成28年度卒業者における就職希望者の割合は、4期ぶりに低下した。



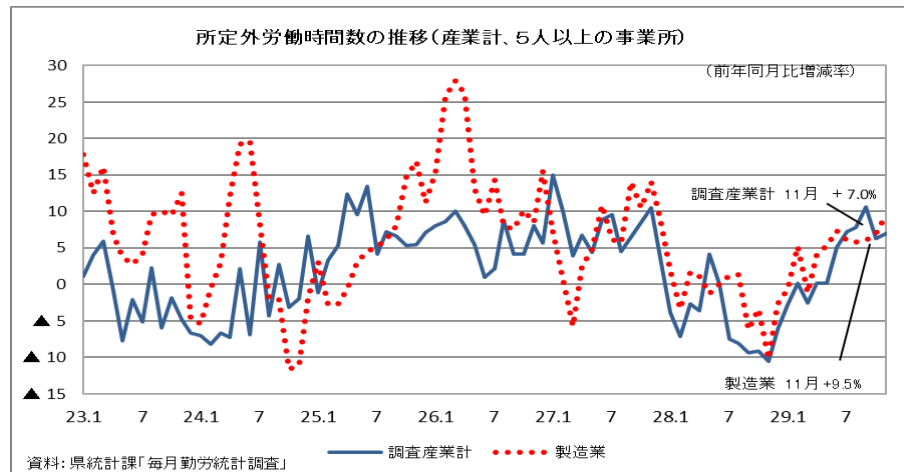
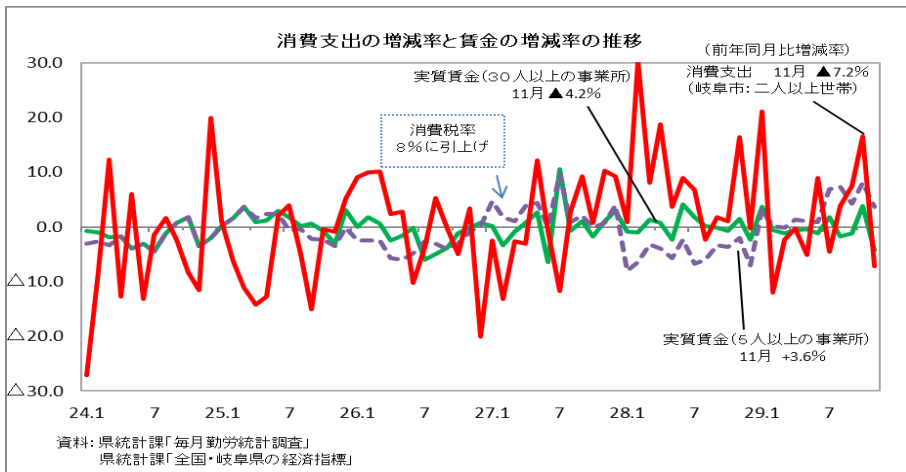
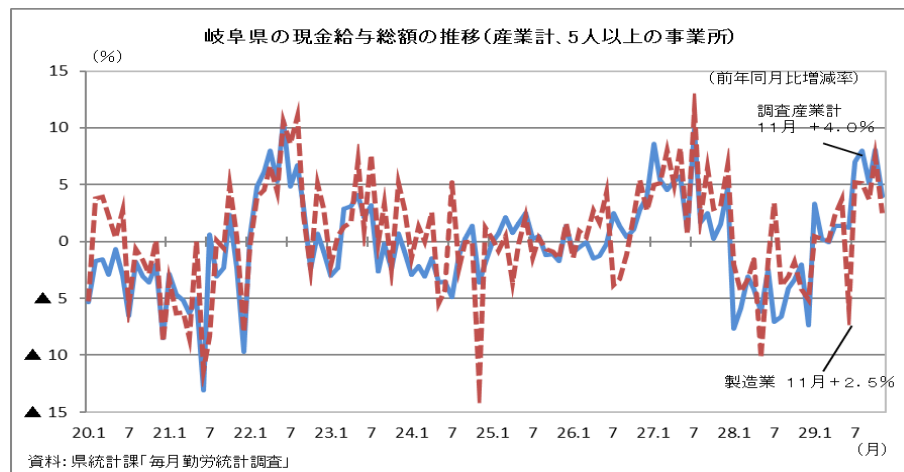
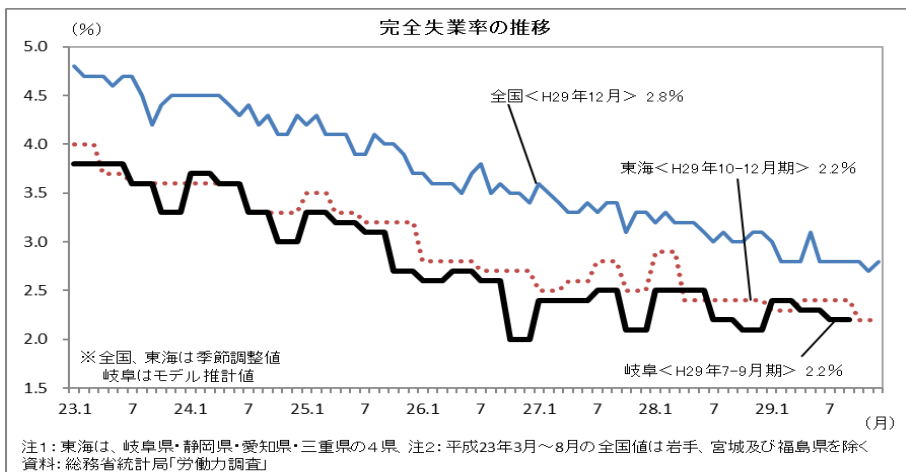
現場の動き(H30.3卒の求人状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人はやや増加。
- <ハローワーク大垣> 求人は増加。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。
- <ハローワーク高山> 求人はやや増加。
- <ハローワーク恵那> 求人はやや増加。
- <ハローワーク関> 求人は増加。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人は増加。
- <ハローワーク中津川> 求人は横ばい。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の12月の完全失業率は2.8%と前月比横ばい。東海地方の平成29年10-12月期の平均は2.2%と前期比0.2%低下。好調な雇用環境を受け、失業率は低位安定となっている。
- 11月の岐阜県の現金給与総額は、前年同月比4.0%増加、製造業で2.5%と堅調に推移。
- 11月の賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比3.6%増加し8ヶ月連続で増加したものの、消費支出については同▲7.2%減少と4ヶ月ぶりに減少。
- 11月の所定外労働時間数は前年同月比7.0%増加。製造業においては9.5%増加した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、鉱工業生産指数は、全体的に底堅く推移しており、自動車産業を中心に各企業からは、好調を示すヒアリングも多く、全体としては上向きの動きが継続している。
- 地場産業は、一部の海外向けには好調さも伺えるものの、全体的には、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫、人材不足の深刻化など厳しい状況が継続している。
- 設備投資は、設備投資実績は前期を上回り、設備投資意欲DIIにも改善がみられ、国内の金属工作機械受注額も堅調に推移するなど、業績好調な企業を中心に設備投資は好調。徐々に設備投資の裾野が広がっている。
- 個人消費は、現金給与総額や実質賃金は改善が続いているものの、新車販売台数（軽自動車含む）は4ヶ月連続で減少し、大型小売店の売上も前年を下回っているなど、一部に弱さもみられる。
- 観光は、外国人観光客は好調な一方で、平均気温が前年より低下したことや、降雪が多かったことなど天候に恵まれず、入込客数が伸びなかった。
- 企業の資金繰りは、資金繰りDIIには改善がみられ、事故報告件数も前年同月並みとなるなど、全体的には落ち着いているが、倒産件数は前年同時期より増加しており、小規模企業には厳しい状況が継続。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、良好に推移しており、総じて県内の雇用情勢は引き続き改善している。但し、大手志向の強まりや、求人と求職のミスマッチ等により、多くの中小企業では採用難に陥っており、人手不足が慢性化しているとともに、人件費の高まりが収益を圧迫し始めている。